

tan の逆関数【復習用問題1】

関数 $f(x) = \int_0^x \frac{1}{1+t^2} dt$ について、次の問いに答えよ。

- (1) $f(\sqrt{3})$ を求めよ。
- (2) 定積分 $\int_0^{\sqrt{3}} xf(x) dx$ の値を求めよ。
- (3) $x > 0$ のとき、 $f(x) + f\left(\frac{1}{x}\right)$ が定数であることを示し、その値を求めよ。

< '13 芝浦工業大 >

【戦略】

- (1) $\int_0^{\sqrt{3}} \frac{1}{1+t^2} dt$ の計算であり、 $t = \tan \theta \left(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}\right)$ の置換積分の一手です。

- (2) 積の形ですから部分積分を疑うのが自然です。

通常、 x を消すために、 $\int x(\quad)' dx$ の形で見ることが多いのですが

今回は $f'(x) = \frac{1}{1+x^2}$ と、 f に ' の服があった方が都合がよいため

$\int_0^{\sqrt{3}} \left(\frac{1}{2}x^2\right) f(x) dx$ と見て部分積分を用いていきます。

- (3) 任意の $x (> 0)$ に対して $f(x) + f\left(\frac{1}{x}\right)$ が定数関数となることを目指します。

見やすさを優先し、 $g(x) = f\left(\frac{1}{x}\right)$ 、 $h(x) = f(x) + g(x)$ とおくことにします。

$h(x)$ が定数関数であることを目指すには、 $h'(x) = 0$ であることを目指すのが自然でしょう。

【解答】

- (1) $f(\sqrt{3}) = \int_0^{\sqrt{3}} \frac{1}{1+t^2} dt$ であり、 $t = \tan \theta \left(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}\right)$ とおく。

$$\begin{aligned} f(\sqrt{3}) &= \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{1}{1+\tan^2 \theta} \cdot \left(\frac{1}{\cos^2 \theta}\right) d\theta \quad \left(\begin{array}{c|c|c} t & 0 & \rightarrow \sqrt{3} \\ \theta & 0 & \rightarrow \frac{\pi}{3} \end{array}\right), \quad \frac{dt}{d\theta} = \frac{1}{\cos^2 \theta} \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{3}} d\theta \\ &= \frac{\pi}{3} \dots \text{答} \end{aligned}$$

- (2) $\int_0^{\sqrt{3}} xf(x) dx = \int_0^{\sqrt{3}} \left(\frac{1}{2}x^2\right)' f(x) dx$
 $= \left[\frac{1}{2}x^2 f(x)\right]_0^{\sqrt{3}} - \int_0^{\sqrt{3}} \frac{1}{2}x^2 \cdot \frac{1}{1+x^2} dx$
 $= \frac{3}{2} f(\sqrt{3}) - \frac{1}{2} \int_0^{\sqrt{3}} \left(1 - \frac{1}{1+x^2}\right) dx$
 $= \frac{3}{2} \cdot \frac{\pi}{3} - \frac{1}{2} \int_0^{\sqrt{3}} dx + \frac{1}{2} f(\sqrt{3})$
 $= \frac{\pi}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{\pi}{3}$
 $= \frac{2}{3}\pi - \frac{\sqrt{3}}{2} \dots \text{答}$

- (3) $g(x) = f\left(\frac{1}{x}\right)$ とおく。

$$f'(x) = \frac{1}{1+x^2}$$

$$\begin{aligned} g'(x) &= f'\left(\frac{1}{x}\right) \cdot \left(\frac{1}{x}\right)' \\ &= \frac{1}{1+\left(\frac{1}{x}\right)^2} \cdot \left(-\frac{1}{x^2}\right) \\ &= -\frac{1}{x^2+1} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{これより、} h(x) &= f(x) + f\left(\frac{1}{x}\right) (= f(x) + g(x)) \text{ とおくと} \\ h'(x) &= f'(x) + g'(x) \\ &= 0 \end{aligned}$$

つまり、 $h(x)$ は定数関数であり、 $h(x) = C$ (C は定数) とおける。

ここで、 $f(1) = \int_0^1 \frac{1}{1+t^2} dt = \frac{\pi}{4}$ ((1) 同様に $t = \tan \theta$ の置換)

$$h(1) = f(1) + f\left(\frac{1}{1}\right) = \frac{\pi}{2} \text{ より、} C = \frac{\pi}{2}$$

したがって、 $h(x) = \frac{\pi}{2}$ (定数関数)

以上から、 $f(x) + f\left(\frac{1}{x}\right) = \frac{\pi}{2}$ (定数関数) \dots 答 ということになり、
 題意は示された。

【戦略2】方針のみ

$y = \tan x$ の逆関数であることを少し押し出したような方針です。

$x = \tan \alpha$ $\left(-\frac{\pi}{2} < \alpha < \frac{\pi}{2}\right)$ となる α を設定することで

$$f(x) = \int_0^{\tan \alpha} \frac{1}{1+t^2} dt$$

と表すことができます。

そこで、 $g(\alpha) = \int_0^{\tan \alpha} \frac{1}{1+t^2} dt$ とおくと、 $t = \tan \theta$ $\left(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}\right)$ とおくことで

$$\begin{aligned} g(\alpha) &= \int_0^{\alpha} \frac{1}{1+\tan^2 \theta} \cdot \left(\frac{1}{\cos^2 \theta}\right) d\theta \\ &= \int_0^{\alpha} d\theta \\ &= \alpha \end{aligned}$$

を得ます。

これが意味するのは、 $x = \tan \alpha$ $\left(-\frac{\pi}{2} < \alpha < \frac{\pi}{2}\right)$ という置き換えにより

$$\begin{aligned} f(x) &= f(\tan \alpha) \\ &= g(\alpha) \\ &= \alpha \end{aligned}$$

という橋渡しが完成するということです。

(1) は $x = \tan \alpha = \sqrt{3}$ 、すなわち $\alpha = \frac{\pi}{3}$ のときを考えるので

$$f(\sqrt{3}) = \frac{\pi}{3}$$

(3) は $\frac{1}{x} = \tan \beta$ $\left(-\frac{\pi}{2} < \beta < \frac{\pi}{2}\right)$ となる β を考えると

$$f(x) + f\left(\frac{1}{x}\right) = \alpha + \beta$$

です。

ここで、 $\tan \beta = \frac{1}{\tan \alpha}$ であることから

$\tan \beta = \tan\left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right)$ ということになり、 $-\frac{\pi}{2} < \alpha, \beta < \frac{\pi}{2}$ であることから

$$\beta = \frac{\pi}{2} - \alpha, \text{ すなわち } \alpha + \beta = \frac{\pi}{2}$$

を得て解決します。

【総括】

特別前提知識を抜きにしても、手は動くはずですよ。

(1) の定積分は当然ですし、(2) の ' の服を着せかえるという部分も、手段ではなく目的を理解していれば、覚えて当てはめるような勉強しかしてこなかったり、場当たりに解いている人たちとは差をつけられると思います。

(3) の

$$\text{定数関数を目指すために、}\left\{f(x) + f\left(\frac{1}{x}\right)\right\}' = 0 \text{ を目指す}$$

という発想は言われなくても自然に見えるはずですよ。

(例題の神戸大の問題は誘導が付いていましたが)